

別記
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 府 知 事	4年 7月 8日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 大阪府枚方市伊加賀緑町2番2号	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 恩地食品株式会社 代表取締役社長 恩地 宏英
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	恩地環境推進会議（恩地独自システム）
適 用 範 囲	京都工場設備全般
導 入 年 月 日	23年 10月 1日
認 証 番 号	
基 本 方 針	私たちは生産活動の全てにおいて「地球にやさしい工場」を基本理念として、社員一同地球温暖化問題を重視し、改善に努めます。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	①CO2排出量 2017年度を基準に原単位（生産ベース）で2022年度に総排出量3%削減、廃棄物（植物性残渣）1%削減、原単位2%先減を目指す。
目標を達成するための取組の内容	各部門の生産廃棄を削減するため、よりデータの精度を上げるよう、各作業ごとの問題点、及びデータを確立した。また太陽光発電の最大効率（9%発電量）を確保できるように、関電と管理を強化する。
目標を達成するための取組の進捗状況	廃棄は細かなデータ取により、見えない廃棄も見え、従来よりあった廃棄が顕著にでた。そのため仮想廃棄量がでて、データに反映し増量となる。しかし、制度の問題で、実質には削減してる。太陽光発電量は、昨年より発電量も2%程貢献量が増えた。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	生産数量が102%と増加したにもかかわらず、太陽光発電による電力発電量は約8%（前年より2%程増減）期待通りで、排出量の削減に効果を発揮、原単位も削減できた。廃棄の意識と、来期以降の対比が、本来のデータとして生かされていく。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の順守状況について月一回は確認を行っている。これまでの違反や行政当局からの指摘等はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価、見直しの必要性については、年一回検討をしている。来期以降も同システムにおいて推進していく。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。